

jfunu Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70
TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349
URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail jf@unu.edu

- 国連大学新研究所の初代所長に竹本氏 P1
- 2013年度活動報告 P1
- 日本文化体験プログラム（歌舞伎観劇）
のご報告 P4

国連大学新研究所の初代所長に竹本和彦氏

国連大学では、本年1月東京本部に設置されている「サステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）」と横浜市に設置されている「国連大学高等研究所（UNU-IAS）」の2つの研究所を統合し、新研究所「国連大学サステナビリティ高等研究所 UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)」を開設することとし、その所長に、竹本和彦氏を任命しました。

竹本氏は1974年に環境庁入庁後、地球環境研究調査室長、広報室長などを経て、2001年の環境省設立と同時に参事官。その後、大臣官房審議官（地球環境担当）、環境管理局長、地球環境審議官を歴任するなど、地球環境問題の国際交渉における第一人者として活躍してきました。1997年の温暖化防止京都会議（COP3）では議長補佐を務め、京都議定書の成立に向けて各国との折衝に当たった他、OECD環境政策委員会副議長（2004年-2007年）、CSD-18共同議長（2010年）、生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10、2010年）



で議長代行を務めました。

著書に『地球環境とアジア』（岩波書店、共著）、『低炭素都市：これからのまちづくり』（学芸出版社、共著）等があります。米国ジョンス・ホプキンス大学高等国際研究大学院より修士号（国際公共政策）、東京大学より博士号（工学）を取得。

国連大学協力会がUNU-IASとの共催で震災復興シンポジウムを開催した

折には、多大な尽力をいただいた方で、今後、新研究所と本法人とより一層の円滑な協力関係が期待されるものです。

公益財団法人国連大学協力会2013年度活動報告

■活動の基本方針

国連大学は、1975年の創設以来、国際的・地球規模課題の解決のための教育・研究を行う機関として機能してきましたが、第64回国連総会（2009年12月）で国連大学憲章が改正され、修士及び博士の学位授与機能が国連憲章に明記されました。そして2010年9月に、東京本部にあるサステナビリティと平和研究所（以下「UNU-ISP」という）を基盤とする大学院「サステナビリティと平和研究科」（以下「UNU-ISP 大学院」という）を創設、名実ともに高等教育機関としての発展を図ることになりました。

2013年6月に、第6代学長として就任したデイビット・マローン新学長は、発足したばかりの大学院について、より高度化した教育をめざすとともに、国際的なシンクタンク機能を強化することを方針にあげ、国連大学が国連及び国際社

会が直面するグローバル・イシューの解決に貢献するような教育・研究の取り組みを重視する計画を打ち出しました。そして横浜にある「高等研究所（UNU-IAS）」と東京にあるUNU-ISPを2014年1月に統合して、「サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）」とし、日本における国連大学の活動をより焦点化する方向を打ち出しました。

「UNU-ISP 大学院」は、サステナビリティ、気候変動、開発、平和構築、人権といった国連及びその加盟国が直面している喫緊の地球規模課題に対して、自然科学、社会科学、人文科学を融合させた学際的なアプローチによって、幅広い理解と卓越した問題解決能力を持つ人材の育成を目指しています。

UNU-ISP 大学院の入学状況については2010年度の入学生は5名でしたが、2012年7月に初めて修士号取得者3名を

輩出し、2013年7月には11名の修士号取得者を卒業させることができました。修了生たちは国際機関の研究プロジェクトへ参加するなど、同大学院の人材育成の目標にかなった活動を始めています。今後は、国連大学大学院の修了生たちが国連機関その他の国際機関、政府関係機関、国際NGO等において地球規模課題の解決に大きく貢献することが期待されます。

同大学院の応募状況も定着しだしています。2012年には915名の応募者があり、16名が入学しました。2013年には539名の応募者があり、12名が入学しました。また2012年の博士課程には35名の応募者があり、3名が入学、2013年には83名の応募者があり、2名が入学しています。

そこで、国連大学協力会の2013年度の事業活動は、国連大学の大学院教育に対する我が国国民の関心を一層高め、またUNU-ISP大学院生の教育活動への奨学金支援が当初の目標通り実現するよう体制を整備し、さらにUNU-ISPの教育活動についても支援を強化するための戦略的な取り組みを積極的に展開し、本法人の公益事業の活性化を図ることとしました。

■国連大学支援寄付金募金活動

国連大学の活動は、国連憲章に則り、人類の生存及び発展、福祉にかかわる緊急に解決を要する国際的・地球規模的課題解決のための教育・研究及び知識の普及を中心としています。日本に本部をおく唯一の国連機関として活動しています。しかしながら国連大学の予算は、通常の国連予算からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金によって運営されています。このことに鑑み、本法人は従前より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を確保するため寄付金募金活動を実施してきました。

1. 国連大学大学院「サステナビリティと平和研究科」支援募金活動（継続事業）

本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、2010年秋にこの大学院に世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、新たな賛助会員システム「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科」奨学助成賛助会員（「JfScholarship for UNU 賛助会員」）制度をスタートさせました。

2013年度において本法人が受け入れた個人及び法人・団体からの寄付金総額は11,770,000円でした。

2. 一般寄付金（継続事業）

従来より継続的に実施している寄付金募金活動で、国連大学の実施する諸活動への助成及び本法人の諸活動への寄付を目的としています。

2013年度の一般寄付金総額は14,500,000円でした。

3. 一般賛助会費（継続事業）

国連大学の行う教育研究活動全般を継続的・安定的に

支援するために実施している「賛助会費」による寄付金募金活動です。

2013年度の一般賛助会費総額は780,000円でした。

■国連大学の活動及び地球問題規模課題解決に係る広報・キャンペーン

国連大学は、人類の生存や福祉、発展に関わる緊急かつ地球規模の課題（グローバル・イシュー）の解決を目的として、さまざまな教育研究活動を展開しています。

国連大学協力会では、日本国民の各界各層に対し、国連大学の取り組みが人類の平和と発展に不可欠であることを周知し、幅広い国民からの支援が得られるようキャンペーン・広報事業を行っています。

2013年度は前年に引き続き、高等教育機関としての本格的な活動をスタートさせた国連大学大学院の大学院生の動向、同大学院の意義や国際貢献の期待について広報活動を行いました。

1. 広報資料の作成（継続事業）

国連大学の活動内容やトピックスの紹介、関係者へのインタビューを掲載した「JfUNU ニュースレター」の発行、国連大学と本法人の活動内容をより具体的に伝える「国連大学と国連大学協力会」を発行しました。

2. インターネットによるキャンペーン（継続事業）

イベント情報の積極的な告知やニュースレターの記事転載を行うとともに、UNU-ISP ウェブサイトとの連携を図り、国連大学とその活動内容を広範に紹介しました。

3. レクチャーシリーズの発行

本法人では、地球規模課題解決のためのシンポジウムを開催し、その内容を一般の人々に解説する導入書として「レクチャーシリーズ」を発行しています。

2013年度は2012年2月に実施したシンポジウム「震災復興と生態適応」及び2011年12月に実施した「人間の安全保障」の内容を編集・収録したものをシリーズ7、8巻目として刊行し、寄付者、関係機関、資料請求者等に配布しています。



■国連大学への助成活動

国連大学の主たる活動は、緊急の地球規模課題解決を図ることを目的として、研究所を主体として進める研究活動と大学院または短期講座における教育活動です。

この事業では、国連大学の研究活動及び教育活動の推進が、人類の発展と平和に重要な貢献を果たすとする観点から、国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行いました。国連大学への助成にあたっては、国連大学が真に必要なとしている分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成事業を検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額などについては、本法人の「助成諮問委員会」の審議を経て決定しました。

1. 国連大学の研究活動に対する助成

国連大学の研究活動は、緊急の地球規模課題解決のために世界的なネットワークによって実施され、その成果は国連機関や各国の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元されるものです。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動を助成するものです。2013年度は2012年度に引き続き、「アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリング」プロジェクトに助成を行いました。

このプロジェクトは日本、中国、韓国、ベトナム、フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール、インドネシア、インド、パキスタン等の沿岸水圏（海水、河川水、湖沼）の汚染を防止するため、各国の公的機関や大学の環境汚染化学物質の分析能力向上を目指して行う調査・研究活動です。ダイオキシンやPCBなどの残留性有機汚染物質の検査技術の向上を図り、アジア水圏の良好な環境管理を目指しています。

2. 国連大学の教育活動に対する助成

(1) 大学院「サステナビリティと平和研究科」の学生奨学経費助成

この助成事業は、正規の学位授与機能（修士・博士）をもつ大学院研究科の学生たちが、長い場合には5年以上にわたり日本に滞在しながら、学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的としています。

助成の内容は、学生の生活費を中心とした補助で、特に開発途上国からの学生への支援を重視しています。2013年度は「jfScholarship for UNU 賛助会員」制度に基づく賛助会員企業からの寄付金を元に、修士課程の学生4名、博士課程の学生3名の合計7名に奨学助成を行いました。

(2) 国連大学グローバル・セミナー湘南セッションに対する助成

グローバル・セミナー湘南セッションは、国連大学が行っている研修事業のうち、もっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実

績を持つ事業です。短期研修（4日間）ですが、毎年幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきました。また、このセミナーには、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より強力に支援してきました。2013年度も引き続き「グローバル・セミナー湘南セッション」に助成しました。

(3) 国連大学サステナビリティと平和研究科に対する助成

国連大学大学院サステナビリティと平和研究科の開発途上地域における持続可能な開発戦略に関する学際的研究に助成しました。

3. 国連大学の教育・研究環境の整備に関する助成

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球規模課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成しました。

■国際相互理解の促進等に関する事業

緊急で地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠です。国連大学本部が日本に設置されていることの強みを活かし、世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行いました。

★大手企業の工場見学



UNU-ISP、UNU-IASの両大学院生とフェローを対象として、現代日本における先端企業の実態を体験的に理解するための機会提供として、6月にjfScholarship特別賛助会員であるトヨタ自動車株式会社の堤工場及びトヨタ会館の見学プログラムを企画・実施しました。

■ 2013 年度国連大学協力会決算概要

I 一般正味財産増減の部 (単位:円)		II 指定正味財産増減の部 (単位:円)	
科目	決算額	科目	決算額
収益 (運用益・寄付金等)	48,951,035	収益 (運用益・寄付金等)	31,131,764
(内 jfScholarship 賛助会)	12,550,000	(内 jfScholarship 賛助会)	11,770,000
(内 寄付金)	14,500,000	(内 寄付金)	14,500,000
費用	△ 60,815,528	一般正味財産への振替額	△ 31,961,764
(内 「UNU-ISP」の学生奨学経費助成)	△ 12,600,000	(内 寄付金)	△ 27,100,000
(内 その他助成)	△ 20,900,000		
特定資産評価損益等	4,450,500	特定資産評価損益等	752,400
当期一般正味財産増減額	△ 7,413,993	当期指定正味財産増減額	△ 77,600
一般正味財産期首残高	589,018,804	指定正味財産期首残高	188,928,200
一般正味財産期末残高	581,604,811	指定正味財産期末残高	188,850,600
III 正味財産期末残高 (I + II)			770,455,411

単位:円

寄付金収入	金額
項目	金額
大学院奨学金 (法人会員 15 件、個人会員 17 件)	11,770,000
指定寄付 (法人 1 件)	14,500,000
一般賛助会費 (法人会員 3 件、個人会員 50 件)	780,000

単位:円

国連大学への助成内容	金額
項目	金額
アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理プロジェクトに対する助成	14,250,000
「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科」の学生奨学経費助成	12,600,000
国連大学グローバルセミナー湘南セッションに対する助成	600,000
「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科」の学際的研究に対する助成	1,000,000
国連大学本部における教育研究のための施設整備費・国連大学図書館の蔵書購入費	5,050,000

日本文化体験プログラム (歌舞伎観劇) のご報告

本法人では、国連大学の大学院生を対象として日本文化に接する機会を提供するため、歌舞伎観劇会を毎年実施しています。今年は、6月13日に実施し、約20名の大学院生が参加しました。

当日は、午後6時半に会場となる永田町・国立劇場に集合しました。例年ですと1~2名は必ず遅れてくる人がいるのですが、今年は定刻前に参加者全員が集まるという企画をした事務局としてはうれしい結果となりました。

今年の演題は「ぢいさんばあさん」、原作は明治から大正にかけて活躍した森鴎外による同名の短編小説です。その小説を昭和の劇作家である宇野信夫が創作を加えて新作歌舞伎として戯曲化したものです。

わかりやすい内容と、夫婦役の俳優が老若を演じわせる趣向が功を奏したのか、午後9時の終演まで静かに鑑賞していた姿が印象的でした。



終演後は、学生たちの希望があり、緞帳をバックにした記念写真撮影後、三々五々に解散となりましたが、歌舞伎観劇の記念に各種のお土産を物色する学生たちが見受けられました。

本法人では、大学院修了式の記念品として歌舞伎役者をデザインした団扇を毎年卒業生にプレゼントしています。

国連大学と国連大学協力会の関係についてわかりやすく解説した小冊子「国連大学と国連大学協力会 2014」を発行しました。

URL → http://www.jfunu.jp/data/publication_pdf/act14.pdf

jFUNU では賛助会員を募集しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

国連大学協力会

検索